

令和2年6月1日に思う

このまま収束に向かうのか、それとも第2波・第3波が押しよせるのか。新型コロナウイルスの感染状況の今後が見通せず、全国的に相次いでイベントや催しが延期、あるいは中止となっています。

本村でも、47回もの歴史を刻んできた「差別をなくす村民集会」を中止としました。これは住民の皆さんが差別や人権問題を身近なものとして捉え、考えるきっかけとなることを目的に毎年開催している重要な催しです。中止の決定は断腸の思いであり、まさに“皮肉なこと”であると捉えています。

人類の歴史は、細菌・ウイルスとの闘いの歴史であると同時に、それは差別や偏見を生み出す悲しむべき歴史でもあります。ウイルスが人間の心と体をむしばむ時、人間の愚かで醜い一面を露呈させてきたことも事実であります。今回の非常事態でも、残念ながら「歴史は繰り返される」こととなり、あちこちで「コロナ差別」なる事象が発生しています。未知なるウイルスとの闘いに身を挺して奮闘されている医師や看護師の方々に対して心無い言動が起り、また感染者やその家族に対しても、「近よらないでほしい」「一緒に遊ばない」などとする事態が横行しました。

私たちは長年にわたり、あらゆる差別と向き合いながら、地道にその学びと運動を重ねてまいりました。これでは「元^{もと}の木阿弥^{もくあみ}」であります。

差別をなくす村民集会が中止となった今、この問題としっかり向き合い、学びを深めることが不可欠であります。